# 日本語 - Japanese

私は骨形成不全症（OI、脆弱な骨）です。
これは私の骨が非常に折れやすいことを意味します。
OIは骨格だけでなく、結合組織全体にも影響を与えます。
私を動かす、運ぶ、診察する、または治療する前に、私または私の両親／付き添いの者に相談してください。
私や彼らの指示に従って、安全に対応してください。

## 次の点をお伝えしたいと思います

- OIでは、骨折は容易に、あるいは自然に発生することがあります。
- 骨折の症状は見た目だけでは分からないことが多く、痛みの訴えが実は骨折を意味していることがよくあります。
- 骨折の兆候（例：異常な可動性やきしむ音）を探そうとするだけでも、骨折を引き起こす可能性があります。
- 骨折の有無を確認または除外する最も安全な方法は、X線検査です（下記参照）。
- 一般的に、骨折は痛みを伴います。
- 痛みがある場合、たとえ骨折が診断されていなくても、治療は骨折と同様であるべきことがあります。
- 適切な鎮痛処置は、子どもにも大人にも推奨されます。
- 薬や麻酔の投与量は、年齢ではなく、身体の大きさに基づくべきです。
- 骨折後の数日間は、鎮痛薬および／または夜間の鎮静薬が推奨されます。
- 固定には軽量な素材が好まれます。
- OIのある患者は、可能な限り早期に動かすようにしてください。
- 入院や手術が必要な場合は、担当の専門医に連絡してください。
- 多くのOI患者は聴覚に問題を抱えています。

## X線検査

- OI の患者では、骨が脱灰（カルシウム成分の減少）している可能性があります。
- したがって、骨粗しょう症と同様に、不要な再撮影を避けるため、通常は低線量の放射線が適しています。
- 過度な動きや不要な持ち上げは避けてください。
- 患者やその保護者／付き添いは、以前の検査経験があることが多く、X 線撮影に適した姿勢を見つける際に役立つ場合があります。

## 手術と麻酔

- 手術台への移動時は、患者を丁寧に、十分なサポートをもって移動させてください。
- 手術台上で姿勢を整える際には、既存の変形や拘縮（関節の動きの制限）に注意してください。
- 頸椎の骨折リスクを最小限にするため、挿管の際は頭をやさしく後ろに倒してください。
- 気管の粘膜は非常に繊細であるため、注意が必要です。
- 歯も脆いことが多いです。